

愛川の自然 第25号

平成 28 年 4 月 23 日 (土) 発行

八菅山いこいの森自然観察路

リーフレットが完成

愛川町・サークル愛川自然観察会協働事業

多くの人が訪れる八菅山いこいの森は、木立の中に自然観察路があり、四季折々の自然を楽しむことができます。広場や公園各施設へは小みちを登ったり下ったりと変化に富んだ観察路（散策路）でつながっています。

園内の施設の紹介と観察路の名称や分岐ポイントを示した地図が欲しいと言う声を受け、平成 27 年度の協働事業の一つとしてリーフレット「八菅山いこいの森自然観察路」の制作に取り組んできました。

八菅山を訪れる多くの人に、いこいの森の豊かな自然を知ってもらおうことと、愛川町が整備してきた多くの施設が有効に利用されることに期待を込めた内容になるよう努めてきました。

平成 14 年度には自然環境の保全に主眼を置いたリーフレット「八菅山いこいの森の生きものたち」を作りましたが、これに続く第 2 集になります。

八菅山のいこいの森の歩き方としてサークル愛川自然観察会では次のような呼びかけを行っています。

- ・鳥、獣、魚、昆虫をウォッチングしてみませんか。
- ・四季の織りなす雑木林や谷戸の水辺を巡ってみませんか。
- ・森林浴でセラピー体験してみませんか。
- ・自分流自然アルバムを作ってみませんか。



活動報告

2016.1 ~ 2016.3

- 第 98 回観察会 1 月 9 日 (土) テーマ; 厳冬の造形美・シモバシラの観察会 暖候日のため中止
八菅山いこいの森 冬の自然観察会 1 月 16 日 (土)

- テーマ; 冬の自然観察路を歩こう! 参加者 21 名
あいかわ公園 1 月の自然観察ガイド 1 月 24 日 (日)
テーマ; オシドリを見に行こう! 参加者 10 名
第 99 回観察会 2 月 20 日 (土) テーマ; 城山湖で水鳥・里地の野鳥を観察しよう! 雨天のため中止
あいかわ公園 2 月の自然観察ガイド 2 月 27 日 (土)
テーマ; 園内の樹木名板を作ろう! 参加者 12 名
あいかわ公園 3 月の自然観察ガイド 3 月 20 日 (日)
テーマ; 園内の樹木名板を作ろう! 参加者 10 名
第 100 回観察会 (厚木植物会と合同) 3 月 26 日 (土)
テーマ; 三増峠でスプリングエフェメラルの観察
参加者 15 名

100 回目を迎えた自然観察会

サークル愛川自然観察会は、発足した平成 20 年 4 月に第 1 回の観察会を開催して以来、3 月の観察会を持って 9 年間、延べ 100 回の観察会を数えることとなりました。

雨天中止等の天候にも左右されましたが、参加者に事故もなく記念の回数を迎えることができました。

普段何気なく見過ごす自然の姿にあらためて感動を覚えたり、めったに出会うことのない動植物を視たり、新発見に小躍りしたりと楽しく自然の中を歩くことができ、有意義で充実した 100 回であったように思います。

発足時からの会の運営方針として、愛川町郷土資料館をはじめ地域の関係機関や厚木植物会等の関係団体との連携を図り、共催事業や合同観察会も数多く進めてきたことや、会員外の人へも参加を呼び掛けて観察会の楽しさを多くの人が体験できる機会としてきたことも、マンネリ化に陥らずに発展してきたことと考えます。

同じ場所を再訪することもあります。常に新鮮な四季折々の自然が待っています。今後とも観察会の運営・参加にご協力いただければ幸いです。

見どころスポット

その 11: 「藤野木—愛川構造線」

丹沢山地は、はるか南の火山島として生まれ、フィリピン海プレートの移動によって 5~600 万年前に本州に衝突し、さらにその後の伊豆半島の追突により隆起したものと考えられています。経ヶ岳や仏果山の山麓を走る「藤野木—愛川構造線」や清川村を縦断して走る「牧馬—煤ヶ谷構造線」は衝突の圧力で生じた逆断層で、津久井

方面に続いています。

構造線とは地質にずれを生じ地震を起こす可能性のある大規模な断層のことですが、愛川・清川に走る2つの断層は古い構造であるため一部を除いて活断層とは認定されていません。

写真の露頭は、浸食によって露出した「藤野木—愛川構造線」の断層面の一部で、愛川層群（経ヶ岳や仏果山を造っている地層＝左側）と相模湖層群（本州側の地層＝右側）と呼ばれる地層が接している断層面です。場所は愛川町の塩川滝の近くで、塩川滝手前の清瀧橋を渡り塩川神社から右手の沢に進み大きな砂防ダムを超え、100mほど沢を登った「燭光の滝」と呼ばれる断崖の東側にある露頭です。地質図を手に大地の成り立ちに思いをはせるのも一興ですが、ヤマビルやマムシの危険のない冬季が適期。落石注意、携帯電話は圏外。単独行動はご法度。

（参照：愛川町の地質 愛川町郷土博物館展示基礎調査報告書他）



・身近な自然・

NO8：自然からの落とし文

林縁の散歩道や公園の林間などを歩いていると、「落とし文」を拾うことがある。小さな昆虫がつくったものとは思えないほどに見事な形をしている。中身を見たくて解いてみると、丹精込めて作った様子が偲ばれ、感心のひと言だ。オトシブミは1cmに満たない昆虫だが、長い口とかぎ爪のついた足を持っていて、巧みに葉を噛み切り、作業途中で解けないように折り癖を付けるように巻き上げ、縁を折り込む工夫までする。ラッピングの天才である。

オトシブミは、昔、直接手渡しし難い手紙をわざと落としておいて相手に渡るように配慮した文（ふみ）の包になぞえられて名付けられた。

この包みは「揺籃（ようらん）」と呼ばれ、中に産み付けられた卵が幼虫になり、やがて揺籃の内部を食べながら成長し、さなぎ、成虫と成長していくための食料であるとともに、外敵から身を守るシェルターの役目もしている。

新鮮な若葉の生えそろうところがオトシブミの活躍する季節。「落とし文」を拾えるよう期待して森の小路を歩いてみてはいかがか。文（ふみ）の中身は豊かな自然からのラブレターかもしれない。

厚木市荻野にオープン！！

子どもたちの自然体験施設

3月に「厚木市子どもの森公園」がオープンしました。この公園は厚木の郊外にあって、かつては里山として薪炭林や炭焼き等、人の生活と一体となって利用されて来ていた土地で、谷筋には棚田状に谷戸田が入り込み湧水を利用したコメ作も行われていました。この土地はNPO神奈川県自然保護協会選定の生物多様性ホットスポットにも位置づいている自然環境が良好なかけがえのない土地です。

こうした環境をそのまま生かして子どもたちが自然の中で活動しさまざまな体験を通して、自ら行動する生きる力を育むとともに、自然の大切さを学ぶ場にするを目的として作られました。自然観察、農体験、冒険等の体験を子どもたちに提供するために、大人たちにとってもこれまで培った知識や経験を生かせるだけでなく、子供たちの成長を見守り、子どもだけでなく、大人も幸せを見つけれられる場になることと思います。

施設は空中回路の観察路、湿地の生きものの保全を兼ねた溜め池、農体験の水田と畑、カマドを設えた作業小屋、管理棟、斜面地形を生かした滑り台などが整備されています。極力自然を生かすため、花木の植栽はなく、用水路は3面コンクリートを避け、農業は使わない田んぼなど、人工的に整然と整備された公園とはだいぶ趣が違います。

公園の整備にあたっては、地域の自然保護団体が中心となってプロジェクトチームを立ち上げ、「生物多様あつぎ戦略」を根拠に様々な提言をするとともに、自然環境の保全のための配慮を進めてきています。

サークルからのお知らせ

1、身近での発見や観察記録などを本通信やホームページへの投稿をお願いいたします。手紙、電話、ファクス、メールでも結構です。できれば写真も添えていただければ幸いです。写真だけの記録でもOKです。

2、サークルからのお知らせは可能な限りメールでお伝えすることになっています。メールアドレスをお持ちの方は代表までお知らせください。

なお、不定期でのお知らせになりますので、時々メールボックスをご覧いただき、受信をご確認ください。サークル愛川自然観察会のホームページでも同じ内容が確認できますので、こちらときどき覗いていただきたいと思います。

サークル愛川自然観察会通信 愛川の自然

NO25号 2016-4-23 発行

E-mail: yalma1gu0chi4@ksh.biglobe.ne.jp

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~aikawashizenkansatu/>

編集人: 山口勇一 Tel・Fax: 046-281-1891